# INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

17

200



#### 実習を诵して、愛媛の地域医療を担う総合医を目指してほしい

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 教授 川本龍一 医師



地域でやりがいを持って、取り組むスタッフに囲まれての実習。

県内の医師不足は年々進行し、特に南 予においては、へき地の診療所などの深刻 な状況が地域中核病院にまで拡大、顕著 化しています。そこで愛媛大学医学部では、 地域医療の担い手の養成を目的に、2008 年度より5年間の期間で県の寄附講座とし て「地域医療学講座」を設置。今年5月か ら、学生の実習をスタートさせました。実習で は、西予市立野村病院と久万高原町立病 院に地域サテライトセンターを設置し、そこ で実際の現場で行われているのと同じ仕事 を体験してもらいます。5年生は全員必修 で、2~3人のグループごとに5日間の泊ま り込みで実施。本年度より、県からの奨学 金を受ける地域特別枠の入学生には、長 期休暇を利用しながら6年間一貫して行う 予定です。同時に、初期臨床研修医にも



実習中の学生

「地域医療研修」として積極的に働きかけ、 受け入れを行っています。この実習で、若い 年代から地域医療の現場を体験し学ぶこと が可能となりました。その意義は非常に大き いでしょう。一方で、5日間という短い期間の 中で、地域医療の本質や現状をいかに強く 印象づけられるか、それが今後の課題です。

ある研究によると、地域住民1,000人 のうち大学病院を受診し入院するのは0.3 人。つまり、ずっと大学にいると特殊な疾 病に対する臨床能力は身に付きますが、 ありふれた疾病に対する能力を身に付け るのは難しい。また、地域の医療機関では 高齢化に伴い、がん末期などによる終末 期医療だけではなく高齢による終末期に 接することも多くありますが、これも大学病 院ではほとんどないことでしょう。一次・二



もう1つの地域サテライトセンター、久万高原町立病院



#### **PROFILE**

かわもとりゅういち◎1985年自治医科大学卒業、医学 博士。松山市出身。県立中央病院などを経て1993年 から西予市立野村病院に勤務、1998年から同病院副 院長、2006年から西予市野村町地域医療センターの センター長。趣味は、水泳、ジョギング、映画鑑賞など。

次医療を行う地域医療機関では、より幅 広い患者さんを診断・治療できる医師が 必要です。自分の得意分野に特化した専 門医としての知識を修得しつつも、オール ラウンダーな総合医として活躍できる医師 を目指してほしいと考えています。

また、地域に根付いている医師への調 査から、学生時代や研修医時代に地域医 療を体験した人が多いことが証明されてい ます。私自身も卒業後3年目に野村病院 に派遣され、外来から入院、在宅医療ま で、幅広い患者さんの診療を通して医師と してのやりがいを感じたことや、保健・医 療・福祉が連携して行う地域医療の醍醐 味を味わえたことが、その後一貫して地域 医療に従事する動機付けとなりました。本 講座では、学生のうちに実習の機会を提 供し地域医療への興味喚起を図ること、 地域医療を将来の選択肢の一つとして提 示することが重要な役割です。楽しみが少 ない、交通の便が悪いなど先行しがちなマ イナスイメージも、現場に出ることでその多 くが払拭されるでしょう。将来的に、一人で も多くの医師が愛媛の地域医療に従事し てくれることを期待しています。

### 「睡眠医学講座」と「睡眠外来」で愛媛の健康な眠りを守ります

愛媛大学大学院医学系研究科 公衆衛生・健康医学分野 教授 谷川 武 医師



愛媛の地で睡眠医学の発展に取り組みます。

アメリカでは10年以上前から睡眠医学 が内科の一つの専門科目となっています が、日本では睡眠医学を専門とする科は 非常に少ない状況。そのため、不眠症の 方が精神科や掛かりつけの医師に相談 し、睡眠薬中心の治療に依存するなど、睡 眠障害を持っている多くの患者さんが見 過ごされ、診療が立ち遅れています。

そこで、愛媛大学医学部では今年4月 に、睡眠障害を幅広く研究する「睡眠医学 講座」を開設。国立大では4例目、四国で は初となります。これまで医学領域は"臓 器"または神経系や循環器系などの"シス テム"で分類されてきました。一方で、睡眠 は"時間"という横断的な切り口で分類さ

愛媛大学医学部 睡眠センター 睡眠医学講座 SAS診療施設 病院・クリニック

大いに貢献できると考え ています。講座では実習 や講義を通じ、学生や若 手の医師に睡眠医学全 般を学んでもらう他、睡 眠障害と循環器疾患 (心不全、不整脈など) の関連についての研究 も進めます。従来の睡眠 医学は呼吸器がメインで

れるため、全ての医学領域との関連性を

有します。その意味では、診療科にかかわ

らず興味を持っていただける、新しいカテゴ

リーといえるでしょう。睡眠障害には不眠

症、過眠症、レストレスレッグス(むずむず

脚) 症候群など100以上の診断基準が存

在しますが、日本ではごく一部しか認知され

ていません。県内推定患者数が2万人に

のぼる睡眠時無呼吸症候群(SAS)は、

睡眠の質の低下による日中の強い眠気や

疲労感が典型的な症状ですが、眠気を感

じずに突然眠りに落ちる例も確認されてい

ます。また、SASが高血圧の発症要因とな

っていることも判明。これらから、睡眠医学

は事故防止と生活習慣病の予防・治療に



たにがわたけし◎1990年東京大学大学院修了、医学 博士。客員講師としてハーバード大に留学、筑波大准 教授を経て2008年から現職。日本睡眠学会評議員、 愛媛 SAS 研究会会長補佐。 睡眠に関する講演、自治 体や企業団体へ提言等、その活動は幅広い。趣味は、 読書、ヨガ、ゴルフなど。

あり、循環器との連携は当院の特徴です。

また6月からは毎週火曜14時~16時 (予約制)の「睡眠外来」を開始しました。 担当医を務める岡は、日本に2名しかいな い国際睡眠専門医です。他院の睡眠外来 の多くはSASのみが診療対象ですが、当 院では様々な睡眠障害に対応可能です。 特に注力したいのは、子供の睡眠障害。 子供の睡眠は大人以上に看過されがち ですが、障害が心身の発達にまで影響を 及ぼすため早期発見・治療が重要です。 これに関連する地域連携の一環として、 県教育委員会の委託を受け、東温市の幼 稚園児から高校生まで約4.500名にアン ケート調査を実施。睡眠障害が疑われる 小児については当院で検査・診療にあた り、その成果を県全域の子供の健康づくり に繋げる計画です。

今後は、県内の睡眠センターで活躍で きる日本睡眠学会認定医クラスの医師を 育てます。講演などの啓発活動や疫学的 な睡眠の研究も充実させ、"研究中心の医 学・社会学"と"外来中心の臨床"を両輪 として睡眠医学を推し進め、将来は当院を 四国の拠点にしたいと考えています。

愛媛県の睡眠医療ネットワーク

# 愛媛大学医学部附属病院 センター・施設トピックス

お気軽にご相談ください

#### 病院ボランティアへ感謝状



本院では、現在126人の一般の方が病院ボランティアとして登録し、外来患者さんのご案内や受付の手伝い、院内図書サービス、環境整備など様々な活動を実施しています。平成21年6月

16日(火)には、本院でのボランティア活動時間が通算200時間、500時間に達した方など9人へ病院長から感謝状が贈られました。表彰式の後には、病院長や看護部長が病院ボランティアの皆さんと直接意見交換を行う懇親会を行い、ボランティアの方からは様々な意見や要望が寄せられました。これらの貴重な

ご意見は、病院内で検討し、可能な限り取り入れていく予定です。本院ではこれからも、病院ボランティアの皆さんのご協力を得ながら、患者さんへのサービスの充実に努めてまいります。

医療サービス室 (医療福祉推進チーム) TEL·FAX: 089-960-5099

#### 愛媛大学プロテオ 医学研究センター

本年4月に愛媛大学内に新 しく「プロテオ医学研究センタ ー」が設置されました。このセン ターは、愛媛大学が世界に先 駆けて実用化に成功した「無 細胞タンパク合成技術」を基 盤として、マラリアや新型イン フルエンザなどの新興・再興感 染症や、がん・自己免疫疾患・ 認知症などの難病の診断・治 療法の開発、また、高血圧・糖 尿・肥満などの生活習慣病の 個別予防法の開発を大きな目 的としています。センターでは、 基礎医学と臨床医学の壁を 越えた新たな医学の創出と、 地域と連携した難病治療に向 けた研究開発に取り組み、本 学から未来を担う高度な医学・ 医療人材を世界に向けて輩出 することを目指します。

#### 第8回ヘルスアカデミーを開催



平成21年6月20日(土)、地域住民を対象にいよてつ高島屋で「あなたの睡眠は大丈夫?」と題し、睡眠時無呼吸症候群(SAS)に関する講演会を開催しました。谷川武教授(公衆衛生・健康医学分野)から、SASは「いびき」が主症状で、繰り返し呼吸が止まって眠りが浅くなる病気。居眠り運転による事故や高血圧・脳卒中などの合併症を引き起こすリスクも高いため、早期発見・早期治療が大事と呼びかけました。次回は9月12日(土)「緩和ケア」をテーマに開催します。

**医療サービス室 (地域医療連携チーム)** TEL: 089-960-5182 FAX: 089-960-5099

#### 地元東温市と協定を締結



平成21年5月18日(月)、東温市との間で「脳卒中患者搬送に関する覚書」の調印式を行い、高須賀功東温市長と横山雅好附属病院長が覚書に署名しました。この覚書は、「愛媛大学と東温市との連携に関する協定書」に基づき、東温市管内で発生した脳卒中患者を速やかに搬送、処置することで快復率を高めることを目指し締結されたものです。地元消防署との連携で、大きな成果があがることが期待されます。地域にあって地域に貢献できる病院として、これからも実効性のある活動を進めてまいります。

#### 編集後記

みなさん今日は。年に4回発行させていただいでいる愛媛大学医学部附属病院情報誌INVITATIONの夏号をお届けします。今回はインフォームドコンセント支援ナース、地域サテライトセンター(地域医療学寄附講座)の開設など盛りだくさんの内容になりました。次回号では大変身の病院アメニティーについてお伝えいたします。患者さんはもちろん、愛媛のすべての皆さんから"愛大病院はすごい"と言っていただけるように、理想の病院をめざして大躍進中です。

◎愛媛大学医学部附属病院広報委員会 委員長 檜垣實男

◎表紙の人

インフォームドコンセント支援ナース 佐々木美奈子さん(左) 上田 梓さん(右) 一正面玄関横の受付スペースにて一



## 愛媛大学医学部附属病院